令和元年度　洋野町立種市小学校　《発行日：令和元年１２月　５日》

校報 水緒

No. 1266
元年度・第１２５号

「ＡＩ時代に淘汰されない学力」とは

パート１

経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が２０１８年に実施した７９か国の１５歳以上を対象に実施した学習到達度調査（ＰＩＳＡ）の結果が公表され一斉に報道されました。各新聞紙には「日本の読解力低下」や「教科書、読めているか」などの見出しが目立ちました。

昨年度の校報でも『夢を持つ事とＡＩ時代』と題して、１１月１６日発行の校報･水緒№１０８７号から４回にわたり掲載してきました。

最近毎日見聞きする、人工知能（ＡＩ）については、人間対将棋や囲碁、チェスでの対決や人工知能が難病の患者さんに投与する最適な薬を導き出し、難病患者さんの命を救った事、人工知能（東ロボ）が東京大学の入試問題に挑戦した等のほか、最近では来年度に開業予定の東京都の高輪ゲートウェイ駅では「無人決済店舗」や「警備ロボット」、「ＱＲ改札」の導入が予定されているなど、人工知能（ＡＩ）の発達は社会の構造を根底から変えていく勢いがあります。

テレビでも新聞でも何度も報道されている通り、これからの世の中は、ますます人工知能やロボットが進化し、普段の生活に入り込んでくる時代となることは確実です。

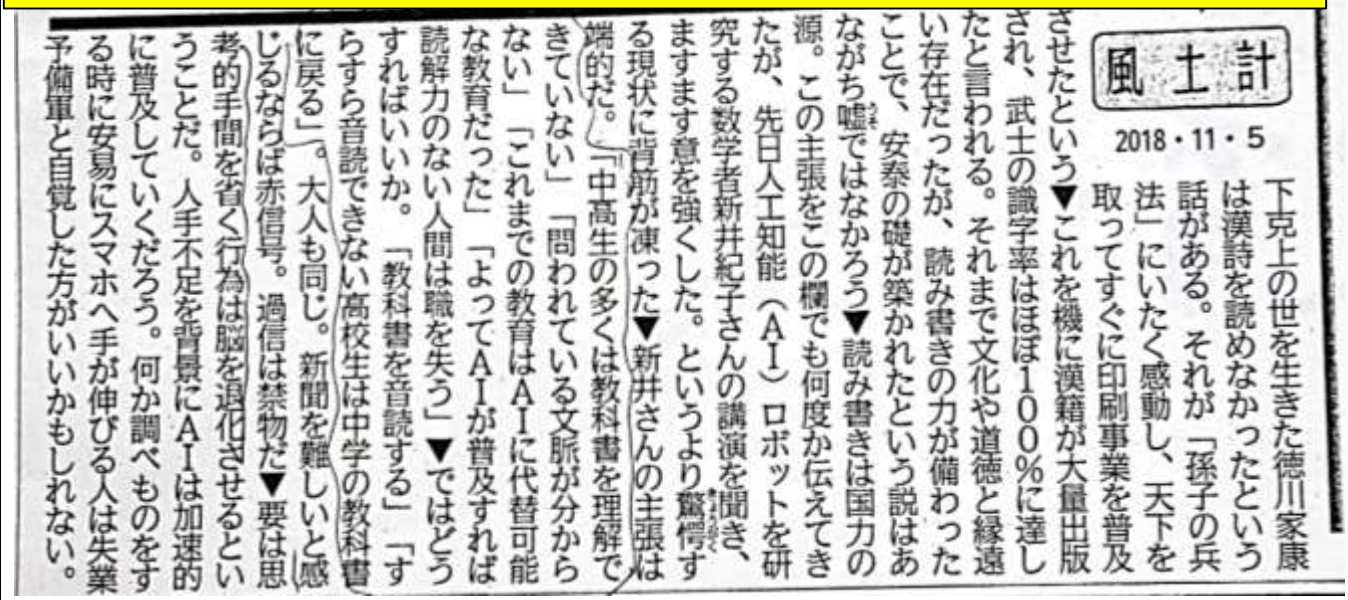
私たち人間の生活を豊かに明るくするための人工知能やロボットのはずですが、その人工知能やロボットに仕事を奪われてしまう大変な時代になりかねない事は、多くの著名な学者や研究者たちが警鐘を打ち鳴らしています。

～著名な学者や研究者が危惧している近未来の一例～

- 子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。
  …キャシー・デビットソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）
- 今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い。
  …マイケル・Ａ・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）
- 2030年までには、週15時間程度働けば済むようになる。…ジョン･メイナード･ケインズ氏(経済学者)
- 近い将来、10人中９人は、今と違う仕事をしている…アメリカ：ラリー･ペイジ（グーグルの共同創業者）

世界中の出来事や欲しい情報や知識などは、インターネットで瞬時に習得できる便利な時代となっています。大都会であろうが、限界集落であろうがその点は平等です。
「暗記学習」や「知識習得学習」を今後も続けていく事や「人に言われた学習や仕事」だけを続ける事は、進学や就労に関わる今後通用しない大変厳しい時代が否応なしに、ごく近い将来到来する事は間違いないようです。
私たちには機械（ＡＩ含む）やロボットにはできない学習や就労が求められてきました。

昨年度 11 月 5 日の岩手日報の『風土計』でもＡＩと失業予備軍について掲載されていました。



風土計

2018・11・5

下克上の世を生きた徳川家康は漢詩を読めなかったという話がある。それが「孫子の兵法」にいたく感動し、天下を取ってすぐに印刷事業を普及させたという▼これを機に漢籍が大量出版され、武士の識字率はほぼ100％に達したと言われる。それまで文化や道徳と縁遠い存在だったが、読み書きの力が備わったことで、安泰の礎が築かれたという説はあながち嘘ではなかろう▼読み書きは国力の源。この主張をこの欄でも何度か伝えてきたが、先日人工知能（AI）ロボットを研究する数学者新井紀子さんの講演を聞き、ますます意を強くした。というより驚愕する現状に背筋が凍った▼新井さんの主張は端的だ。「中高生の多くは教科書を理解できていない」「問われている文脈が分からない」「これまでの教育はAIに代替可能な教育だった」「よってAIが普及すれば読解力のない人間は職を失う」▼ではどうすればいいか。「教科書を音読する」「すらすら音読できない高校生は中学の教科書に戻る」。大人も同じ。新聞を難しいと感じるならば赤信号。過信は禁物だ▼要は思考的手間を省く行為は脳を退化させるということだ。人手不足を背景にAIは加速的に普及していくだろう。何か調べものをする時に安易にスマホへ手が伸びる人は失業予備軍と自覚した方がいいかもしれない。

子ども達に明るい未来、夢多き未来を手渡すのは、私たちおとなの責任でもあります。
ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）は「21 世紀社会は、ロボットや機械が対応できない職種だけが残っている時代」と予測しています。喜劇王チャップリン主演映画で、機械文明に翻弄される人間社会を皮肉った「モダンタイムス」のような社会を次世代の子ども達に手渡す事だけはしないよう、機械（ＡＩ含む）やロボットによって人間の仕事が消失してしまうことがないよう、「美しいものを美しい」と感じる心や「素晴らしい事には素晴らしい」と称える心、「困っている人には寄り添い手を差し伸べたり、相手を察してあげる」などを含んだ、『非認知能力』が備わっている子どもに今後も育てていかなければいけないと、普段がんばっている２３０名の種小っ子の姿を思い浮かべながら思いました。
ＡＩ時代に淘汰されない学びや必要な能力と『非認知能力』については、次号以降紹介します。

支援する会「おもちつき」が、間もなくです！

昨年度の様子

本校が自慢とする、種市小学校「子どもたちを支援する会」の２学期最後となる行事が迫ってきました。（１４日開催です）今回は、この季節恒例のもちつきです。餅つき体験だけでなく、ゴマをする体験なども予定されています。子どもたちが杵でついたおいしい餅をお雑煮やゴマ、あんこ、クルミなどでおいしくいただきましょう。

申し込みは以前お配りした用紙に記入し提出してください。
支援する会の活動は全て五感を使う、脳にとってもよい活動ですね。